

学会だより

◇ 優秀発表賞にエントリー制を導入

日本育種学会では、若手研究者の研究を奨励する目的で、一般講演発表の中から優れた研究発表を選び日本育種学会優秀発表賞として表彰しております。2011年春季講演会（横浜市立大）より、本来の主旨をより鮮明にするために、エントリー制度を採用します。若手研究者（学部学生、大学院生、ポスドク、任期付助教など）が筆頭発表者である演題の積極的なエントリーを歓迎します。また指導教員の皆様には、若手のエントリーを奨励して頂くようお願いいたします。会員の皆様のご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

◇ 常任幹事会議事録

開催日時：平成22年9月11日（土）14時より

開催場所：東京大学農学部

出席者：倉田のり、奥野員敏、草場信、野々村賢一、横井修司、鳥山欽哉、大澤良、伊藤純一、那須田周平、金澤章、千田峰生、武田真、穴井豊昭、奥本裕、田口文緒、友岡憲彦、北野英己、久保山勉、有村慎一

委任状：乙部千雅子

各常任幹事からの経過報告後、秋田大会でJIRCASと大学院生との交流を目的としたJIRCASの情報公開の場が提供されること、科学技術振興機構（JST）への講演要旨サンプル寄贈の継続、生物多様性条約第10回締約国会議への取り組み、優秀発表賞の投票方法、2011年秋季大会（福井県立大学）・2012年春季大会（横浜市立大）の開催に関して討議を行った。

◇ 幹事会議事録

開催日時：平成22年9月23日（木）15時より

開催場所：秋田市民交流プラザ アルヴェ

出席者：会長 倉田のり、副会長 奥野員敏、阿部純、三浦秀穂、阿部利徳、西尾剛、千田峰生、鳥山欽哉、岩永勝、久保山勉、大澤良、田部井豊、金子幸雄、中村郁郎、伊藤純一、荻原保成、宍戸理恵子、多田雄一、有村慎一、芦荻基行、佐藤豊、小島昭夫、村井耕二、北野英己、奥本裕、築山拓司、齊藤大樹、清水顕史、辻本壽、富田因則、武田真、安井秀、穴井豊昭、草場信、野々村賢一、横井修司、那須田周平、田口文緒、友岡憲彦（39名）

委任状：貴島祐治、金澤章、高畑義人、半田裕一、阿部知子、坂井真、和田卓也、乙部千雅子（8名）

欠席：安東郁男、渡邊和男（2名） 計49名

1. 各常任幹事経過報告・関連報告

1) 総務（野々村）

2010年9月現在の会員数は2,040名であること、松尾孝嶺名誉会員の逝去についての報告がなされた。

2) 科研費・農学会（伊藤）

平成22年度科研費「研究成果公表発表（B）」の申請書（課題名：健康な暮らしと未来の植物—研究者が描く夢の植物—）が採択され、500,000円の交付を受けたこと、平成22年度科研費「研究成果公開促進費（学術定期刊行物）」が採択され、3,900,000円の交付を受けたこと、平成23年度の科研費申請にかかる申請書の作成依頼が担当者に対して行われたことが報告された。

3) 国際・渉外、学会間連携（鳥山）

講演会の作物学会との講演会合同開催について、常任幹事会での検討経過について報告がなされた。

4) ホームページ（那須田）

HPの更新について、平成22年4月1日以降9月6日現在で34回の更新がなされたこと、記者発表資料および英文大会案内を掲載したことについて報告がなされた。

5) 地域活動（各地域幹事）

北海道地区では、第258回日本育種学会・第241回日本作物学会北海道談話会例会が2010年5月28日に、第259回日本育種学会・第242回日本作物学会北海道談話会例会が2010年7月27日に北海道大学にて行われたこと、東北地区では、第5回東北育種研究集会在2010年8月26日に東北大学において開催されたこと、中部・東海地区では、地域談話会が行われたこと、近畿地区では、近畿作物・育種研究会第169回例会が、2010年6月26日に京都府立大学農学部において開催されたことが報告された。

6) GMO関連（大澤）

名古屋でのCOP10開催について説明があり、育種学会としては学会員にCOP10の決定事項の周知を中心に活動すること、関連シンポジウムの開催が必要であることが確認された。

7) 会計（奥本）

中間決算・資産勘定について報告があった。

8) 編集英文誌（田口）

Breeding Science 特集号の発行、英文誌がメジャーなデータベース収録の選考対象になる条件を精査していること、インパクトファクターが1.4程度に上がっていることが報告された。

9) 編集和文誌（北野）

投稿数と審査状況について報告がなされた。和文誌に品種育成の項目を追加する件に関しては、今後も検討が必要であることが報告された。

10) 集会（久保山）

秋田大会の開催予定、次大会（横浜大会）の開催予定について報告がなされた。

2. 議事

1) 平成 22 年度日本育種学会賞選考について

学会賞等選考委員会（奥野員敏委員長，岩永勝，西尾剛，荻原保成，奥本裕，鳥山欽哉，北野英巳）および幹事会の議を経て次の 3 件に選定した。

◎高畑義人（岩手大学農学部）：アブラナ類の小孢子胚形成の遺伝育種学的研究

◎中村俊樹（農研機構東北農業研究センター・めん用コムギ研究東北サブチーム）：コムギ澱粉変異体の作出とその育種利用に関する研究

◎「農研機構・飼料用水稲品種の研究開発グループ」（代表者：加藤浩）：日本各地に適した稲発酵粗飼料および飼料用米向け水稻品種シリーズの開発

2) 平成 22 年度日本育種学会奨励賞選考について

学会賞等選考委員会および幹事会の議を経て次の 3 件に選定した。

◎伊藤純一（東京大学大学院農学生命科学研究科）：イネにおける葉の分化パターンの分子遺伝学的研究

◎佐藤豊（独立行政法人農業生物資源研究所・ゲノムリソースセンター）：葉老化に関する分子遺伝学的研究

◎犬飼義明（名古屋大学大学院生命農学研究科植物遺伝育種学研究分野）：イネの根系形成機構の解明と育種への応用

3) 平成 23 年度秋季大会（第 120 回講演会・第 54 回シンポジウム）開催地について

平成 23 年度秋季大会を福井県立大学（大会委員長：大田正次教授）で開催することが提案され，了承された。

4) 優秀発表賞の選考方法および内規の変更について

優秀発表賞の選考に関する内規 J の変更について提案がなされ，内規のうち付記を全文削除することが承認された。それに伴い，本文 3) を 2 項目に分割し，選考者は従来の幹事および講演会座長に加え，必要に応じて会長が若干名の学会員を選出できること，投票は常任幹事会の決定した方法に従うこと，との条文を加えることで承認された。また，優秀発表賞の投票方法に関する検討がなされた。

5) 独法（JIRCAS）の就職案内ブース開設について

秋田大会の独法（JIRCAS）の就職案内ブース開設についての紹介と横浜大会からは参加独法数（生物研，作物研など）を増加させていきたい旨の説明があった。

3. 関連報告

1) シンポジウム委員会（大澤）

公募数の減少に対する改善策を検討中であることが報告された。

2) 男女共同参画委員会（大澤）

連絡会関連の活動報告，アンケート調査の結果，託児所の運営費を学会が主に負担することなどが報告された。

3) 記者発表（草場）

平成 22 年 9 月 15 日に報道各社に対し，全講演 274 課題から選定した 5 課題について記者発表を行ったことが

報告された。

4) その他

第 118 回大会における優秀発表賞の選考は前大会同様に行うことで了承された。

◇ 第 118 回講演会日本育種学会優秀発表賞

平成 22 年度秋季大会（第 118 回講演会）における日本育種学会優秀発表賞が下記の 19 課題に決定された。

講演番号 103：mPing はなぜ転移するのか？—エピジェネティックな制御機構から逸脱したイネ転移因子 Ping の影響—。○門田有希^{1,2,3}・内藤健²・T. Chen²・S. Wessler²・奥本裕¹（1. 京大院農，2. ジョージア大学植物科学，3. 日本学術振興会特別研究員）

講演番号 104：DNA メチル化がイネ非自律性転移因子 mPing の転移に与える効果。○森奈々子・築山拓司・寺石政義・奥本裕・谷坂隆俊（京大院農）

講演番号 109：ハクサイ根こぶ病抵抗性遺伝子 *Crr1* のマップベースクローニング。○畠山勝徳¹・諏訪部圭太²・加藤丈幸^{1,2}・布目司¹・福岡浩之¹・松元哲¹（1. 野菜茶研，2. 三重大生物資源）

講演番号 122：イネの分枝を制御する *WFP* 遺伝子は転写時及び転写後抑制による発現制御を受ける。○三浦孝太郎^{1,2}・池田真由子²・松原篤史²・X. Song²・浅野賢治^{2,3}・松岡信²・北野英己²・芦荻基行²（1. 福井県大生物資源，2. 名大生物機能開発利用研究センター，3. 北農研）

講演番号 210：マイクロアレイによるイネの根の通気組織形成に関わる分子機構の解析。○山内卓樹¹・塩野克宏^{1,2}・安彦友美¹・I. Rajhi¹・高牟禮逸朗³・長村吉晃⁴・堤伸浩¹・加藤清明⁵・中園幹生^{1,6}（1. 東大農学生命科学，2. 日本学術振興会特別研究員 PD，3. 北大農院，4. 農業生物資源研究所ゲノムリソースセンター，5. 帯広畜産大，6. 名大院生命農学）

講演番号 321：血清コレステロール値低下作用を有するペプチド，ラクタスタチンを胚乳に蓄積したイネの開発。○若佐雄也¹・長岡利²・高岩文雄¹（1. 生物研，2. 岐阜大応用生物）

講演番号 403：試験管内染色体倍加による自家和合性を示す同質四倍体ナシ属植物の開発。○田平弘基¹・遠藤貴裕²・米村善栄²（1. 大山農業改良普及所，2. 鳥取県園芸試験場）

講演番号 406：イネの biotron breeding system; 年 6 度の戻し交配を可能にする栽培法。○大西孝幸¹・石川亮²・山川博幹³・木下哲¹（1. 奈良先バイオサイエンス，2. 神戸大農学，3. 作物研稲収量性研究北陸サブチーム）

講演番号 502：コムギクラス B MADS-box 遺伝子 *WAP3* における同祖遺伝子特異的転写制御システム。○漆川直希¹・半田裕一²・小川泰一²・武田真¹・村井耕二³（1. 岡山大植物研，2. 生物研，3. 福井県大生物資源）

講演番号 520：ニホンナシにおける雌ずい側自家和合性変異ハプロタイプ S4sm の花粉側特異性の解析。○角井

宏行¹・加藤雅樹²・加藤修³・北口美代子³・佐々英徳²
(1. 名大, 日本学術振興会特別研究員, 2. 千葉大院園芸,
3. 千葉県農林総研)

講演番号 524: ダイコンの細胞質雄性不稔遺伝子 *orf138* を発現する葉緑体形質転換ベクターの作製とそれを用いた稔性回復遺伝子作用アッセイ系の構築. ○田中義行・安本景太・山岸博・寺地徹 (京産大総合生命科学)

講演番号 526: イネ LD 型細胞質雄性不稔性に対する稔性回復遺伝子 *Rf2* はグリシンリッチタンパク質をコードする. ○板橋悦子・岩田夏子・藤井壮太・風間智彦・鳥山欽哉 (東北大院農)

講演番号 614: *plastochron* 変異体のホルモン応答性と原因遺伝子の過剰発現. ○三村真生¹・佐藤豊²・小嶋美紀子³・榎原均³・伊藤純一¹・長戸康郎¹ (1. 東大院農生命科学, 2. 生物研, 3. 理研植物科学センター)

講演番号 615: イネ細葉遺伝子 *SLENDER LEAF1* の同定. ○吉川貴徳・伊藤純一・長戸康郎 (東大農学生命科学)

講演番号 617: イネにおける芒の形成を制御する遺伝子の解析. ○鳥羽太陽・大森良弘・平野博之 (東大院理)

講演番号 P007: 自家不和合性を利用したセイヨウアブラナ *F₁* 品種採種システム. ○宇田川久史・李鋒・西尾剛 (東北大院農)

講演番号 P043: 遺伝子組み換えによらない植物細胞へのタンパク質直接導入. ○鷺田治彦¹・辻寛之¹・田岡健一郎¹・小嶋長次郎^{1,2}・島本功¹ (1. 奈良先端大・バイオサイエンス, 2. 阪大・蛋白研)

講演番号 P057: シロイヌナズナのカドミウム耐性変異体 MRC-32 の原因遺伝子の解明. ○渡辺明夫・清水都乃・佐藤奈美子・高橋秀和・櫻井健二・赤木宏守 (秋田県立大生物資源科学部)

講演番号 P081: 多収イネ, ハバタキの穂の着粒構造形成に関わる *Gnl* および QTL のピラミディング. ○池田真由子¹・高師知紀²・山村卓也³・保浦徳昇¹・森中洋一²・土井一行⁴・芦荻基行¹・松岡信¹・北野英己¹ (1. 名大生物機能開発利用研究センター, 2. HRI-JP, 3. (株)アースノート, 4. 名大院生命科学)

◇ 日本育種学会第 118 回講演会選定課題記者会見報告

会見日時: 平成 22 年 9 月 15 日 (水) 11:00 ~ 12:15

会場場所: 東京大学山上会館地下一階・東京大学記者会室
出席者: 幹事長 草場信, 庶務幹事 伊藤純一
参加報道機関: 共同通信, 科学新聞, 日本農業新聞, 化学工業日報, 朝日新聞, 読売新聞の 6 社

平成 22 年 9 月 24 (金曜), 25 日 (土曜) に秋田県立大学 (秋田市) で行われた日本育種学会第 118 回講演会の講演課題 (計 274 課題) の中から常任幹事によって選定された以下の 5 つの発表課題について記者会見を実施した。

【記者会見課題】

(1) 講演番号: 321 「血清コレステロール値低下作用を有

するペプチド, ラクトスタチンを胚乳に蓄積したイネの開発」若佐雄也・長岡利・高岩文雄 (農業生物資源研究所, 岐阜大学)

(2) 講演番号: 402 「機能性多糖高含有オオムギ品種「ビューファイバー」の育成」塔野岡卓司・吉岡藤治・青木恵美子・河田尚之・吉田めぐみ (農研機構・作物研, 農研機構・九州沖縄農研)

(3) 講演番号: 403 「試験管内染色体倍加による自家和合性を示す同質四倍体ナシ属植物の開発」田平弘基・遠藤貴裕・米村善栄 (鳥取県大山農業改良普及所, 鳥取園生工研)

(4) 講演番号: 406 「イネの *bitoron* breeding system; 年 6 度の戻し交配を可能にする栽培法」大西孝幸・石川亮・山川博幹・木下哲 (奈良先端大学バイオサイエンス研究科, 神戸大学農学部, 中央農研北陸センター)

(5) 講演番号: P057 「シロイヌナズナのカドミウム耐性変異体 MRC-32 の原因遺伝子の解明」渡辺明夫・清水都乃・佐藤奈美子・高橋秀和・櫻井健二・赤木宏守 (秋田県立大学生物資源科学部)

それぞれの課題について発表者に説明用レジュメを作成して頂き, それに基づいて草場と伊藤が説明し, 質疑応答を行った. 記者会見後, 講演番号 402 の課題が日本農業新聞 (9/17), 日本経済新聞 (9/17), 常陽新聞 (9/17), 講演番号 406 の課題が読売新聞 (奈良, 大阪, 関東版) (9/25) に掲載された。

研究助成公募の案内

◇ 財団法人タカノ農芸化学研究助成財団 平成 23 年度研究助成対象者募集要領

本財団は, 農学, 特に農芸化学 (生物資源等) に関する学術研究を助成し, もって学術研究の発展に寄与することを目的とし設立されました。

本年度も, 農芸化学等に関する研究を行っている大学等の研究機関の研究者に対し, 研究助成金を交付いたします. 特に, 若手研究者への助成の枠を設け, 今後の当該分野の研究促進に役立ちたいと考えています。

平成 23 年度は, 次の要領で助成対象者を募集いたします。

1. 研究課題: (1) 穀類並びに豆類の栽培生産技術 (栽培・育種等) に関する研究, (2) 穀類並びに豆類の利用及び加工技術に関する研究, (3) 穀類並びに豆類の品質・成分並びに栄養生理等に関する研究, (4) 納豆菌等微生物の特性・生成酵素等に関する研究
2. 研究助成対象者: (1) 大学及び短大の研究者 (大学院生も含む), (2) 国立試験研究機関の研究者, (3) 公立試験研究機関の研究者, (4) その他本財団が適当と認めた研究者
3. 助成金額: 一般研究者 1 件 100 万円を 7 件程度, 若手研究者 1 件 50 万円を 6 件程度 (昭和 46 年 4 月 1 日以

降に生まれた者)

4. 交付時期：平成 23 年 5 月予定
5. 申請手続き方法：当財団所定の申請用紙に必要事項を記入し、平成 23 年 3 月 20 日（必着）までに郵送願います。尚、申請書用紙は、タカノフーズ（株）ホームページ <http://www.takanofoods.co.jp/> 内【タカノ財団について】からダウンロードできます。または、E-mail にお問合せいただけましたら、書類を添付して返信いたします。
6. 申請書請求先及び送付先：〒 311-3411 茨城県小美玉市野田 1542（財）タカノ農芸化学研究助成財団
TEL: 0299-58-4363, FAX: 0299-58-3847
E-mail: tazaidan@takanofoods.co.jp
7. その他：同一研究課題で、他の団体等へ応募され、かつ、本年度重複助成となられた場合には、助成をできない場合がありますのでご注意ください。

談話会だより

◇ 北海道地区

【第 260 回日本育種学会・第 243 回日本作物学会 北海道談話会例会】

シンポジウム「食糧自給率の向上は地球温暖化ガス排出を削減する」

日時：2010 年 9 月 4 日（土）13:00～17:50

場所：北海道大学 クラーク会館大講堂

タイトル・講演者：

1. 日本の作物栽培における地球温暖化ガスの吸収量と排出量の関係
増田清敬（滋賀県立大学環境科学部）
2. 生産低下をきっかけとする国産米競争力の強化
笹原和哉（農業・食品産業技術総合研究機構）
3. 超多収コムギ品種の開発と北海道での大規模コムギ栽培での利用
吉村康弘（北海道立総合研究機構）
4. 関東地域での大規模水田輪作体系における生産コストの低減
渡邊好昭（農業・食品産業技術総合研究機構）
5. 不耕起乾田水稲直播栽培による温室効果ガス低減効果
石橋英二（岡山県農林水産総合センター）
6. 資源循環型自然農法栽培による水稲の収量性及び収益性
三上新一（青森県中里町自然農法研究会）
上村豊和（青森県産業技術センター）
金澤章（北海道大学大学院農学研究院）

◇ 東北地区

第 5 回東北育種研究集会

第 5 回東北育種研究集会が、2010 年 8 月 26 日（木）に東北大学大学院農学研究科において開催されました。参

加者は福島県、山形県を除く東北 4 県と新潟県の 7 研究・教育機関からの総勢 49 名、ポスター発表は 18 課題となりました。日本育種学会の地方会員の交流による学会地域活動の活性化のため始められた本研究集会は、例年は作物学会の支部会に併せて行っていましたが、今回はその前後が大学院入試日と休日に重なったため、翌週に開催しました。招待講演は宮城県の非会員および学会員から 2 題の講演をいただきました。1 題目は東北大学生命化学研究科の教授である東谷篤志氏による「作物の高温不稔の生理と制御」、2 題目は宮城県古川農業試験場作物育種部長である永野邦明氏による「イネの耐冷性育種の現状と最近の育成品種について」でした。

東谷篤志氏の高温不稔の話題では、オオムギやシロイヌナズナの花粉の高温不稔が葯でのオーキシン生合成の低下により引き起こされることについて、分子遺伝学的解析を交えた実験結果で紹介していただきました。永野邦明氏によるイネ育種の話題では、耐冷性の検定技術や品種育成のこれまでの成果についての紹介の後、地域興しを目的とした「ゆきむすび」などの地域独自品種の育成の取り組みについて紹介していただきました。討論では、オーキシン散布による高温不稔回避の具体的な方法等について質問が出され、活発な意見交換がなされました。その後の情報交換会でも学生を交えながら和やかな雰囲気の中、情報交換がなされました。今回の集会の事務連絡では、中西印刷様を通じて東北地域会員全員に開催通知がなされ、学会員への周知が確実に行えました。

以下はポスター発表の題目です。

P-1：LD 型細胞質雄性不稔イネに対する稔性回復遺伝子 *Rf2* のマップベースクローニングおよび解析。○板橋悦子・岩田夏子・藤井壮太・風間智彦・鳥山欽哉（東北大院農）；P-2：*Brassica rapa* 種間不和合性に関する遺伝解析。○宇田川久史¹・石丸洋次¹・李鋒¹・佐藤豊^{1,2}・北柴大泰¹・西尾剛¹（1. 東北大学大学院農学研究科, 2. 現：農業生物資源研究所）；P-3：ダイズの種皮着色抑制に関与する *CHS* 遺伝子由来の内因性 siRNAs に関する研究 III。5' 末端および 3' 末端構造の解析。○倉内佑・千田峰生（弘前大学農学生命科学部）；P-4：穎花形成変異体の選抜と遺伝解析。○齋藤生・石川隆二（弘前大学農学生命科学研究科）；P-5：ダイコンの小孢子培養および胚軸培養における系統間差異。○佐藤早希・横井修司・高畑義人（岩手大農）；P-6：Gibberellic acid insensitive mRNA transport in both directions between stock and scion in *Malus*。○Haiyan Xu¹, Wenna Zhang², Maofu Li², Takeo Harada¹, Zhenhai Han², Tianzhong Li²（1. Fac. Agric. Life Sci., Hirotsaki U., Japan, 2. College Agric. Biotech., China Agric. U., P. R. China）；P-7：イオンビームによるイネ白濁種子変異体の原因遺伝子の解析。○高橋明¹・大磯俊行¹・加賀谷紘子¹・田中淳²・佐藤（永澤）奈美子¹・櫻井健二¹・渡辺明夫¹・赤木宏守¹・高橋秀和¹（1. 秋田県立大学, 2. 高崎量子応用研究所）；P-8：シロイヌナズナ *TRT* 遺伝

子が関わる花成誘導機構の解析. ○津和本亮・原田竹雄 (弘前大・農学生命科学); P-9: イネミトコンドリア遺伝子 *nad5* の転写後発現制御に関わる MPR25 タンパク質. ○戸田拓士¹・藤井壮太²・風間智彦¹・鳥山欽哉¹ (1. 東北大学大学院農学研究科, 2. ARC University of Western Australia); P-10: *Brassica rapa* における胚軸肥大性の QTL 解析. ○殿崎薫¹・道場和也²・北柴大泰¹・房相佑²・金子幸雄²・西尾剛¹ (1. 東北大, 2. 宇都宮大); P-11: アジアならびにオセアニア地区における *O. rufipogon* の遺伝的分化. ○ハオ イン¹・小林雄¹・一谷勝之²・田中克典³・中村郁郎⁴・佐藤雅志⁵・佐藤洋一郎³・石川隆二¹ (1. 弘大農生, 2. 鹿児島大農学, 3. 総合地球環境学研究所, 4. 千葉大院園芸学, 5. 東北大院生命科学); P-12: Transcriptional gene silencing by siRNA transported long-distantly through phloem. ○白松齡・葛西厚史・原田竹雄 (弘大農); P-13: イネの液胞への重金属輸送体 (*OsHMA3*) はカドミウムの地上部への移行を制御する. ○宮箱秀典・手塚耕一・佐藤奈美子・櫻井健二・高橋秀和・渡辺明夫・赤木宏守 (秋田県立大生物資源); P-14: *Oryza rufipogon* に由来する 3 種類の稔性回復系統 RT61C, RT98C, RT102C の持つ稔性回復遺伝子の探索. ○村田隼人¹・風間智彦¹・本村恵二²・鳥山欽哉¹ (1. 東北大学大学院農学研究科, 2. 琉球大学農学部); P-15: F2 集団および半数体倍加系統におけるオオムギ雲形病に対する幼苗検定と圃場検定の発病の比較. ○山口修・伊藤誠治 (中央農研北陸セ); P-16: 篩管長距離輸送 siRNA シグナルによる転写型遺伝子サイレンシング (TGS) 発動様式. ○山田かおり・白松齡・葛西厚史・原田竹雄 (弘前大院農学生命科学); P-17: Association of sequence variation in *Brassica*

GLABRA1 orthologs with leaf hairiness. Feng Li, Hiroyasu Kitashiba, Takeshi Nishio (Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University); P-18: ラオスにおける野生イネ自生地保全区の集団構造解析. ○王艶平・石川隆二・中村郁郎・佐藤洋一郎・佐藤雅志 (弘大農生, 千葉大院自然科学, 総合地球研, 東大院生命科学研)

千田峰生 (弘前大学農学生命科学部)

◇ 第 118 回講演会報告

2 題の講演 (P014, P015) が講演取り消しとなった。

日本育種学会会員異動(2010.07.21 ~ 2010.10.20)

- ◇ 普通会員入会: 安部洋 (茨城), 植村香織 (京都)
- ◇ 学生会員入会: 今野格 (宮城), 大屋美知, 小林紫緒, 鈴木雅也, 劉華 (東京), 本郷耕平 (神奈川), 八木陽也 (愛知), 泉はるか, 手嶋立 (京都)

住所変更等

- ◇ 普通会員: 藤野賢治, 山下陽子 (北海道), 五十鈴川寛司, 森谷真紀子 (山形), 佐山貴司, 森正彦 (茨城), 田中晃司 (群馬), 内宮博文 (埼玉), 大越一雄 (千葉), 前田節子 (静岡), 平田香里 (京都), 藤岡唯志 (和歌山), 泉川康博 (広島)
- ◇ 学生会員: 手塚大貴 (茨城)

逝去

河崎久男 (茨城), 平田豊 (東京), 森島啓子 (神奈川)
慎んでご冥福をお祈りいたします。